私たちも参加します

JIMTOF2016
第28回 日本国際工作機械見本市
The 28th JAPAN INTERNATIONAL MACHINE TOOL FAIR

日本工作機械輸入協会
会長
中川　貴夫

ＩｏＴなど最新技術に触れて

ＪＩＭＴＯＦ２０１６の開催、誠におめでとうございます。１９６２年に大阪で開催された第１回から数えて今年で54年目となりますが、ＪＩＭＴＯＦの日本のモノづくりに対する貢献は計り知れないものがあります。55年に創立された当協会は、第１回開催よりＪＩＭＴＯＦとともに歩んでまいりました。今後ますますの盛会を期待する次第です。

さて、昨年に輸入工作機械は通関ベースで１１００億円を超え、近年最高の数字を記録しました。政府による設備投資優遇政策、円安、そして業界の努力の賜物（たまもの）であります。今年は為替が円高に振れたため顧客の購買意欲に減退が見られますが、このＪＩＭＴＯＦを機に後半より一層の巻き返しを期待しております。

当協会では啓発活動として、企画委員会主催のセミナーや企業見学会を開催しております。特に若い人たちにはこれらの活動を通じて、モノづくりの原点や、日本の近代工業化に輸入工作機械が貢献してきた歴史を学んでいただくと同時に、最先端のＩｏＴやインダストリー４・０などにも親しんでいただく取り組みをしております。

今回も、当協会の会員各社はＪＩＭＴＯＦへの特別な思いをもって、最先端の機械・装置を出展し、お客さまのご来場をお待ち申し上げております。

日本鍛圧機械工業会
会長
川西　宣明

未来へつなぐ革新技術に

ＪＩＭＴＯＦ２０１６の開催に際しまして心よりお祝いを申し上げます。

今回、日本鍛圧機械工業会からは、エステーリンク、オーセンテック、大峰工業、オプトン、キャドマック、小森安全機研究所、大東スピニング、トルンプ、村田機械の９社の会員企業が出展いたします。ご来場の皆さまにはぜひお立ち寄りいただきたくお願い申し上げます。各社とも時代に合致した革新的機械や技術を提案し、来場する工作機械ユーザーにアピールしたいと出展しております。

ＪＩＭＴＯＦ２０１６では「ここから未来が動き出す」のテーマに沿って数々の新技術・工作機械が日本や世界のモノづくり業界に対して提案されることと存じます。製造業の根幹を支えるモノづくり技術の革新的発信を期待しております。本年のＪＩＭＴＯＦが工作機械関係者の皆さまにとって実り多い展示会になりますように、祈念いたします。

日本精密機械工業会
会長
稲葉　弘幸

超精密へのあくなき挑戦

当工業会は「超精密へのあくなき挑戦」を共通テーマに掲げています。量産分野は海外へ、多品種少量分野は国内という中で、細かなニーズに応えるためには、多様化した製造に慣れ、作業効率と経済効果の高い製造現場の構築に貢献できる技術力が必要です。超精密へのあくなき挑戦は工業立国である日本の技術力を示し続けるため工業会挙げての意気込みを表しています。

そしてあくなき挑戦を続ける企業さまに技術力を示す場として「日本人の匠技・モノづくりコンテスト」を企画し、入賞作品は会場で展示します。また国内でモノづくりをしている集団をアピールするため、日本製の精密機械を認証する「ＪＡＰＡＮ ＭＡＤＥ」認証制度を設立。ブランド力・信頼性・情報発信力を強め、新しい需要創出を喚起したいという狙いがあります。

共通テーマ達成のため工業会会則に掲げられているのが「会員企業相互の親睦」です。グローバル競争下でも個性を発揮し、業界の継続的な発展のためにも親密度の高い工業会であることを基本路線に挙げています。

２０１７年には当工業会の設立60周年を迎えます。現在は正会員37社、賛助会員55社、特別会員２名に参加いただいています。60周年の節目には会員数１００社を目指します。ＪＩＭＴＯＦには24社が出展しますので、ぜひお立ち寄りください。

日本機械工具工業会
会長
本間　博夫

ニーズに応える商品を開発

ＪＩＭＴＯＦ２０１６の開催に、心よりお祝いを申し上げます。

当工業会は２０１５年６月に旧日本工具工業会と旧超硬工具協会が67年の伝統を礎に統合し、新たな歴史を歩み始めました。今回のＪＩＭＴＯＦは私どもにとって統合後、１回目の記念すべき展示会となります。会員68社、４４６小間に、２年間の技術が蓄積された新商品を披露いたします。

昨今、工具の最大需要分野である自動車産業では、電気自動車（ＥＶ）や燃料電池車（ＦＣＶ）など、環境対応車の実用化が急速に進んでおります。このような中で、機械工具に対するニーズも変化してまいりました。また円高などによる市場の低迷により、一層の生産性向上が求められており、それらのニーズに応えられる機械工具の商品開発が、私どもにとって課せられた命題であります。

工業会が統合されたことで会員数が増えました。これまで以上に、お互いを意識し合い、切磋琢磨（せっさたくま）し、革新的な新商品、新技術が発表されます。それらは、お客さまにとって新たな加工技術のブレークスルーとなる工具が数多く含まれていると信じております。

統合後初のＪＩＭＴＯＦが、お客さまにとっても私どもにとっても意義のある内容であることを期待しております。ぜひ当工業会会員のブースにお立ち寄りくださいますよう、お願い申し上げます。

日本工作機器工業会
会長
寺町　彰博

製造業「革新」の中核担う

ＪＩＭＴＯＦ２０１６の開催に際しまして、日本工作機器工業会を代表し、心よりお祝いを申し上げます。

日本の工作機械受注は２０１４年、２０１５年と着実に回復してまいりましたが、足元では世界経済の先行きへの不透明感と急速な為替の円高により、潮目が変わってきていると感じています。しかしながら、ＩｏＴ、ＡＩ（人工知能）、ビッグデータ、ロボットなどの目覚ましい発展を背景に、製造業における技術革新がグローバルで強力に推し進められていることから、マザーマシンである工作機械の需要は中長期的に拡大していくことに疑いの余地はありません。

このような大きな変化を迎える中、これまで世界をリードしてきた日本の工作機械は、製造業における技術革新の中核を担っていくものと考えられます。当会におきましても、最高水準の工作機械メーカーのご要望にお応えすべく、ダイナミックなイノベーションを大胆なスピードをもって成し遂げ、工作機械業界の発展に寄与してまいりたいと存じます。今回のＪＩＭＴＯＦにおいても数多くの新製品を出展いたしますので、ぜひ当会員のブースにお立ち寄りくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

日本精密測定機器工業会
会長
中川　徹

縁の下の力持ちとして

待望の東新展示棟の完成を受けて海外からも多くの出展社を迎え、過去最大規模となるＪＩＭＴＯＦが開かれることに対し、協賛団体の一員として、心よりお祝い申し上げます。足元、世界の景況に不透明感が増し、不確実性が高まっている状況でありますが、インダストリー４・０も展望し、新技術、新製品の新しい息吹を吹き込み、来場者に感動を与え、まさに「ここから未来が動き出す」ことを祈念する次第です。

当工業会も過去最多の24社が過去にない小間数で出展する運びとなりました。品質管理の重要性が一層高まる中、モノづくりを支える縁の下の力持ちとしての自負を持ち、ユーザー各社の計測ニーズに対し、時代を多少なりとも先取りしたソリューションを提供していければと思っております。計測で何かお困りのことがあれば、会場にワーク（加工対象物）をお持ち込みいただくことも含め、その場で積極的に課題解決のためのご相談をいただければ光栄です。

また、この機会に３次元測定機規格の最新動向、アプリケーションの事例紹介、測定ツール活用セミナーなども開催しますので、多くの皆さまのご来場を心よりお待ち申し上げております。